

八甲田山付近の地震活動について*

Volcanic earthquakes activity of Hakkodasan Volcano.

仙台管区气象台火山監視・情報センター

Volcanic Observations and Information Center, Sendai District Meteorological Observatory, JMA

・概況（第 1 図～第 3 図）

八甲田山は、「火山防災のために監視・観測体制の充実等のある火山」に選定されなかったことから、気象庁は火山観測施設を設置しておらず、一元化システムによる監視を行っている。

八甲田山周辺では東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降、地震が増加した状態で経過している。また、2013 年 2 月頃からは、八甲田山大岳直下付近を震源とする火山性地震が散発的に発生している。

・噴気など表面現象の状況

噴気等異常に関する通報はなく、噴気活動状況に変化はない。

・地震や微動の発生状況（第 2 図、第 3 図）

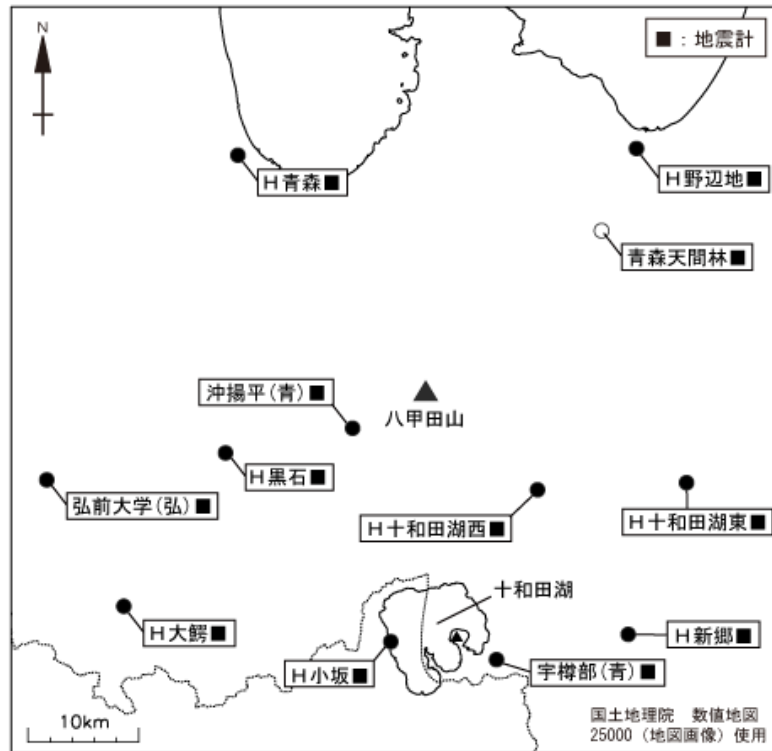
八甲田山の周辺では、東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降、主に山体の南東～南西～北西側の山麓付近を震源とする地震が増加した状態で経過している。

また、2013 年 2 月頃からは、八甲田山大岳山頂直下付近の、深さ 1～11km を震源とする火山性地震が散発的に発生するようになり、4 月以降は増加傾向となっている。

当初、震源域直近の地震観測点であった、H十和田湖西（八甲田山大岳山頂から南東方向約 13 km、沖揚平（青）は 2 月～5 月に障害）で観測された地震波形は、低周波地震の様相を示していたが、6 月に入って復旧した沖揚平（青）（八甲田山大岳山頂から南西方向約 7 km）で観測された波形からは、冒頭部分の高周波成分とそれに続く表面波の卓越している状況が認められた。このことから、地震活動は山頂直下の浅い場所で発生していると推測される。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、弘前大学、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成している。

* 2013 年 7 月 22 日受付



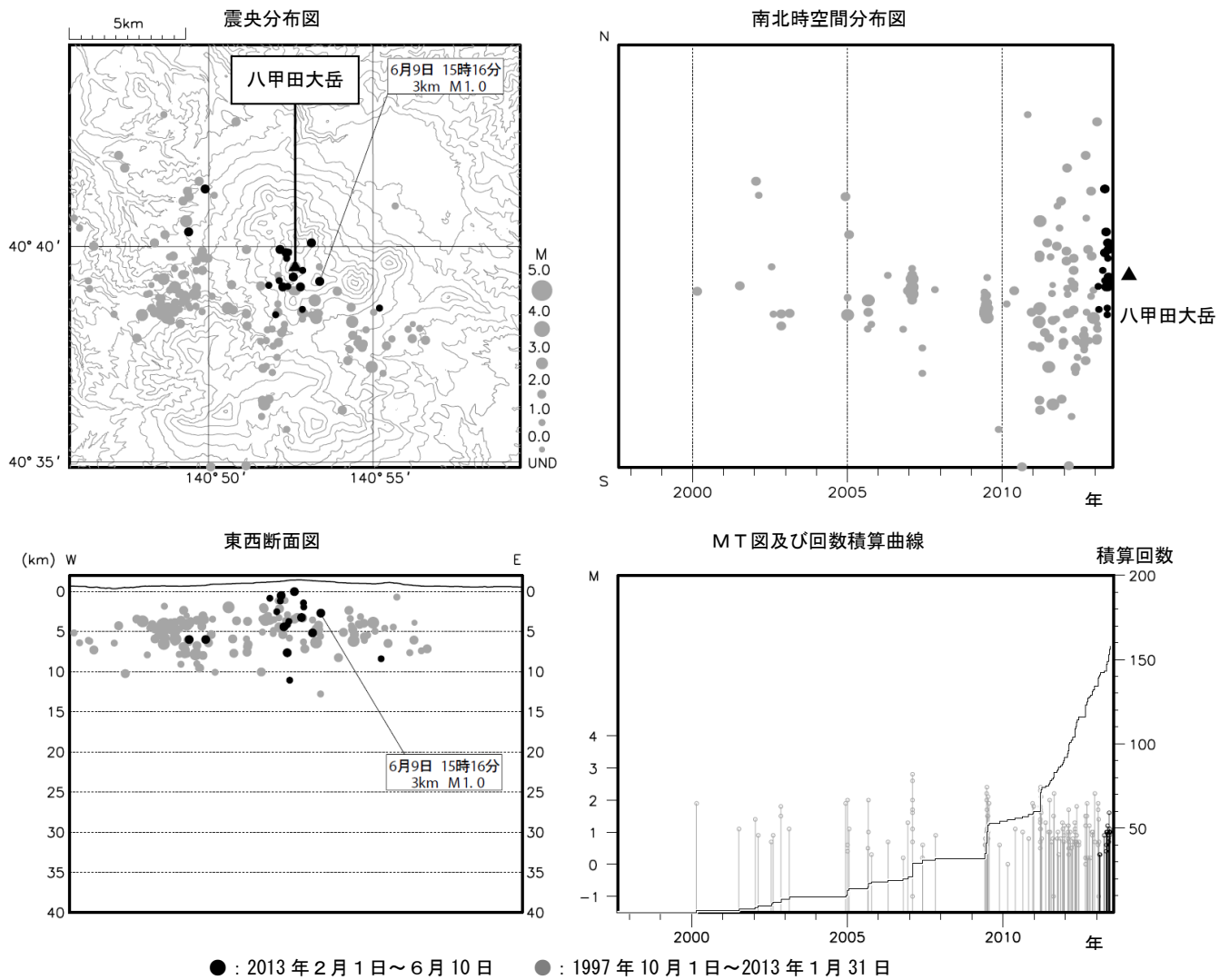
第 1 図 八甲田山周辺の地震観測点

Fig1. Seismograph station near the Hakkodasan Volcano.

■最も近い震動観測点は、沖揚平（青森県）〔山頂から約 7 km〕

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を使用した。

弘）：弘前大学 青）：青森県 H：防災科学技術研究所

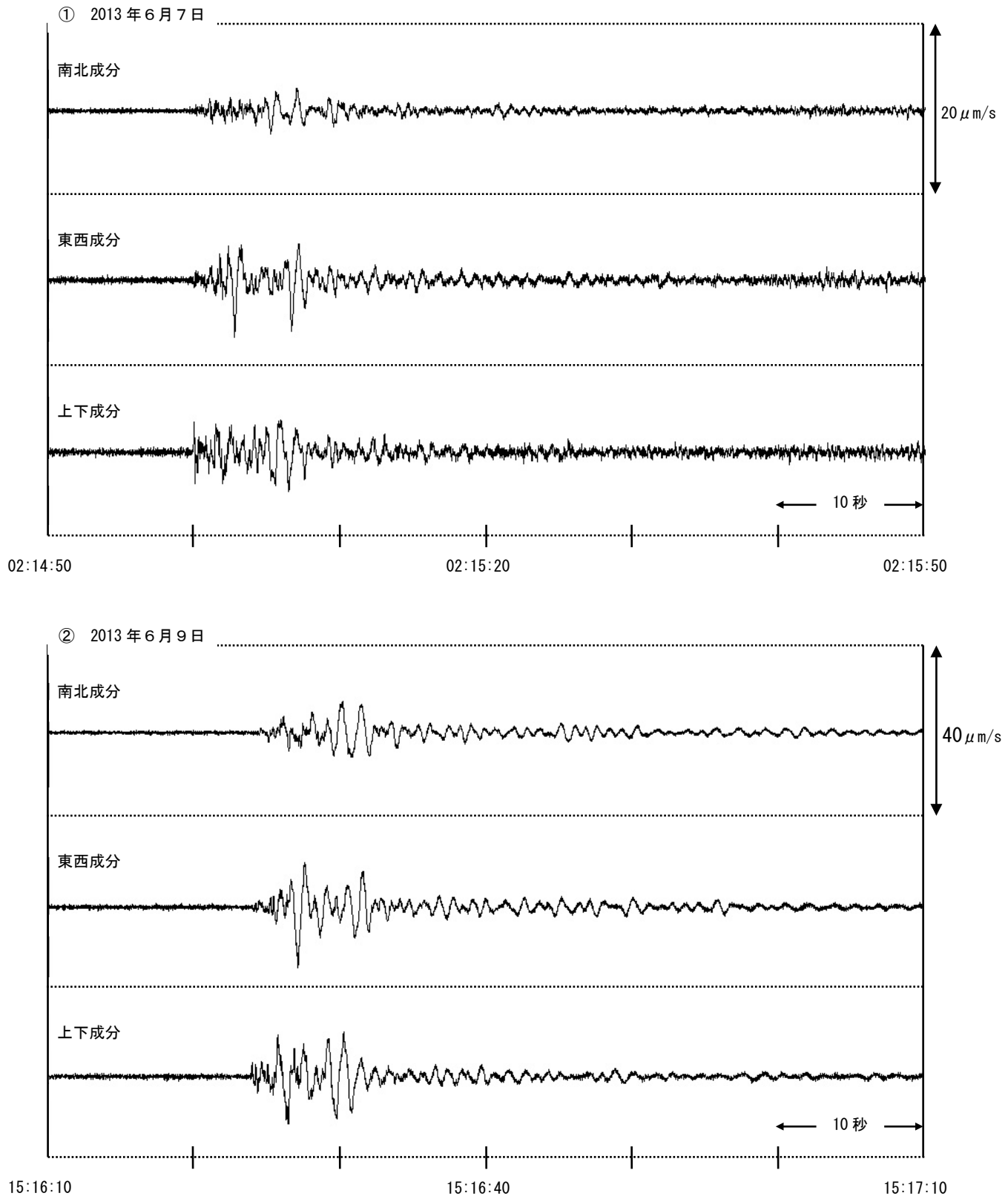


第2図 八甲田山 一元化震源による八甲田山周辺の地震活動 (1997年10月～2013年6月10日)

Fig.2 Hypocenter distribution around Hakkodasan volcano(October 1, 1997–June 10, 2013)

注) 2001年10月以降、検知能力向上。

この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ (標高)」を使用した。



第3図 八甲田山山頂付近 火山性地震の震動波形

Fig.3 Example of Volcanic earthquake waveform near the Hakkodasan Volcano sumit

(沖揚平観測点地震計の速度波形、2013年6月4日から収録開始)

- ① 2013年6月7日 02時14分50秒～02時15分30秒 (2013年6月4日以降で振幅が小さめの地震)
- ② 2013年6月9日 15時16分10秒～15時17分10秒 (2013年6月4日以降で振幅が最大の地震・第2図の震央分布図、東西断面図の吹き出しをつけた地震)